

オープンデータの取込み、加工編集

スーパーマッフル・デジタル最新バージョン対応版

CONTENTS	
■ 事前準備①：地価公示データのダウンロード	2
【GMLフォルダの『GeoJSON』を取込み「テキスト編」】	3
【取込んだデータを目的に合わせて「フォルダー分け」】	5
【カスタム情報の地図表示編集】	9
【テキストの応用編：「テキスト」データで出力しグラフ化】	10
■ 事前の準備②：土地用途地域データのダウンロード	13
【GMLフォルダの『GeoJSON』を取込み編集「ポリゴン編」】	14
【取込んだデータを目的に合わせて「フォルダー分け」】	16
【「フォルダー分け」したデータ選択と目的に合わせて「色分け」】	18
■ カスタム情報を結合する応用編	22

- スーパーマッフル・デジタル25から「シェープファイル」の取込みに対応しました。



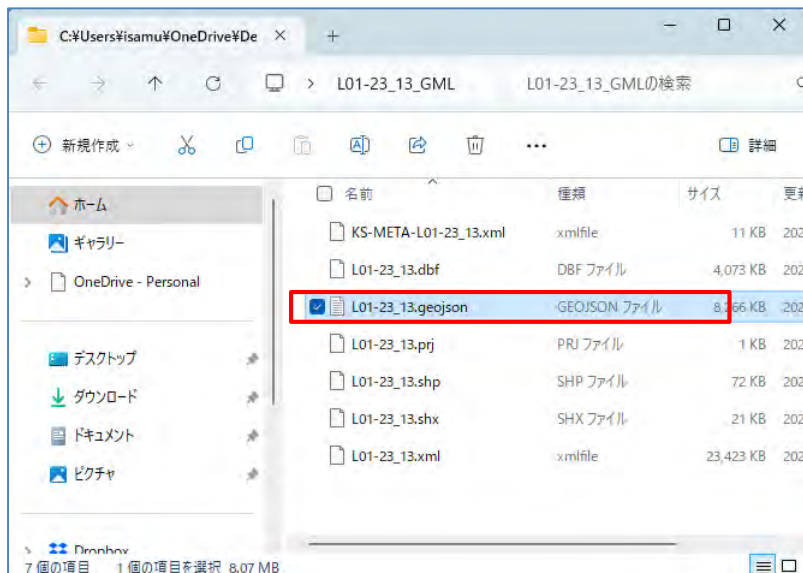
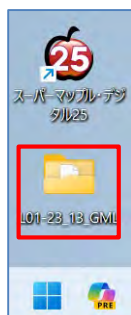
【参考】

「国土数値情報ダウンロードサイト」から (<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>)
「地価公示」の「L01-23_13_GML」データおよび「土地用途」の「A01-19_13」を使用し、
マニュアルに記載いたしております。

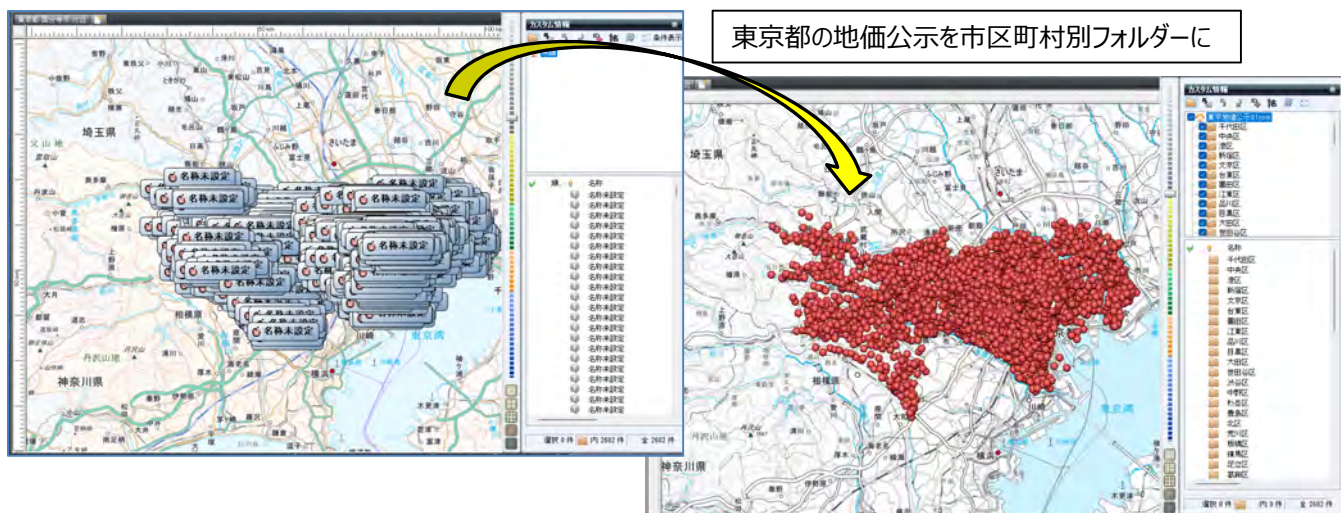
■ 事前準備①：地価公示データのダウンロード

- ① 「国土交通省」の「国土数値情報」の「地価公示（ポイント）」サイトから、任意のエリアをダウンロードし、ファイルをダブルクリックし、デスクトップに解凍すると、作業が行いやすくなります。

※GMLフォルダー内にある「GEOJSON」ファイルを使用します。

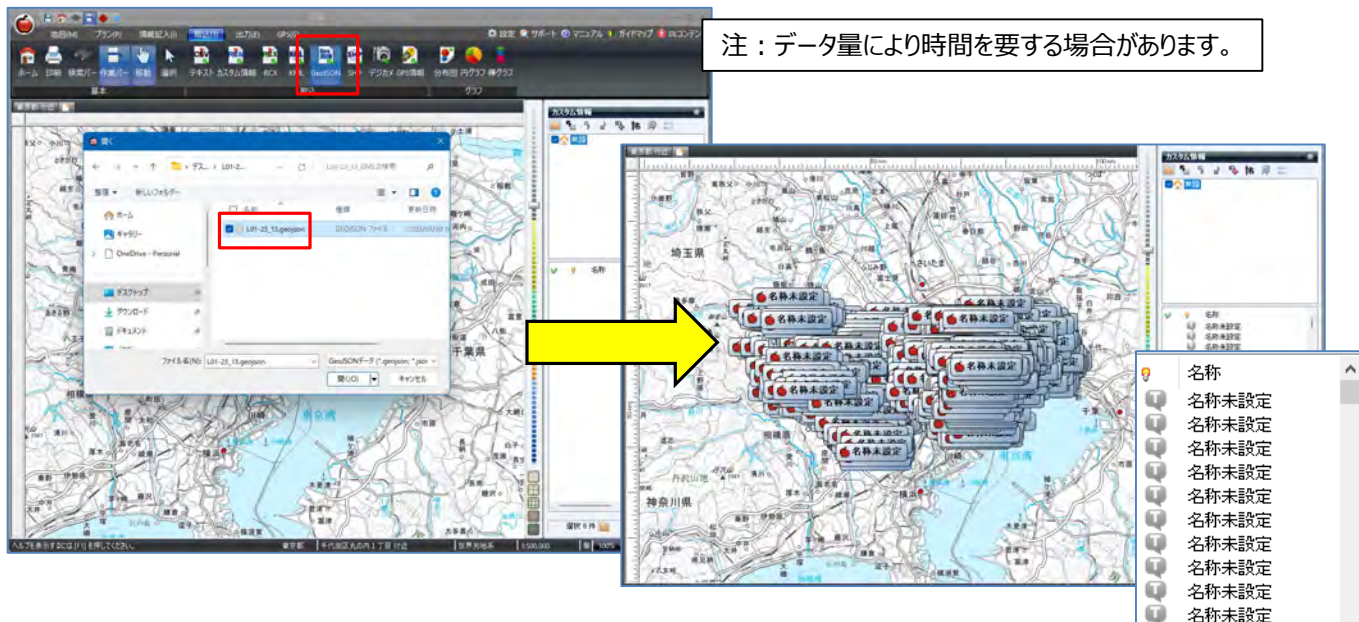


仕上がりイメージ



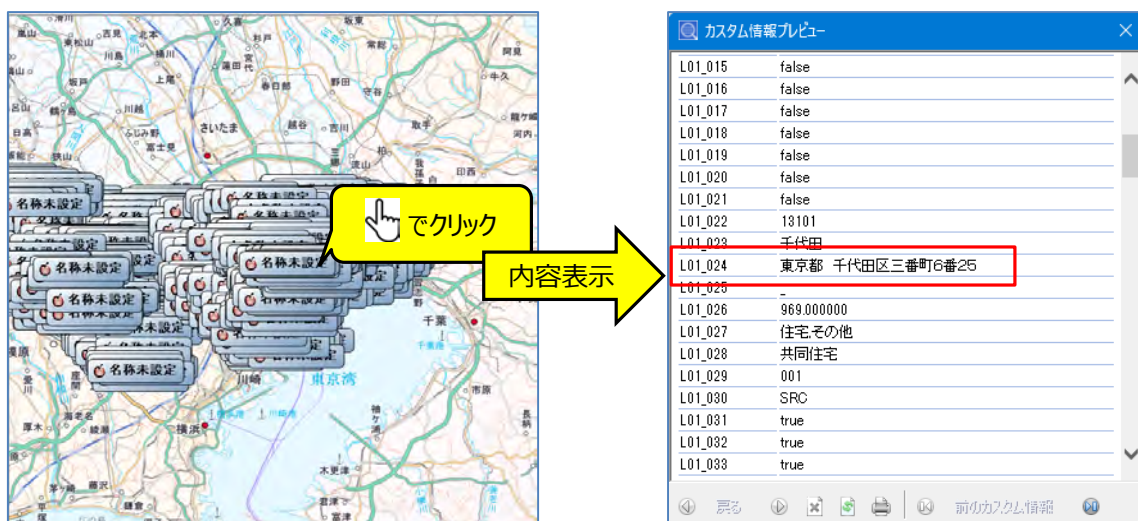
【GMLフォルダの『GeoJSON』を取込み「テキスト編」】

- ① スーパーマップル・デジタルを起動し [取込] の [GeoJSON] をクリックし、「L01-23_13.geojson」の「開く」で取込んでください。

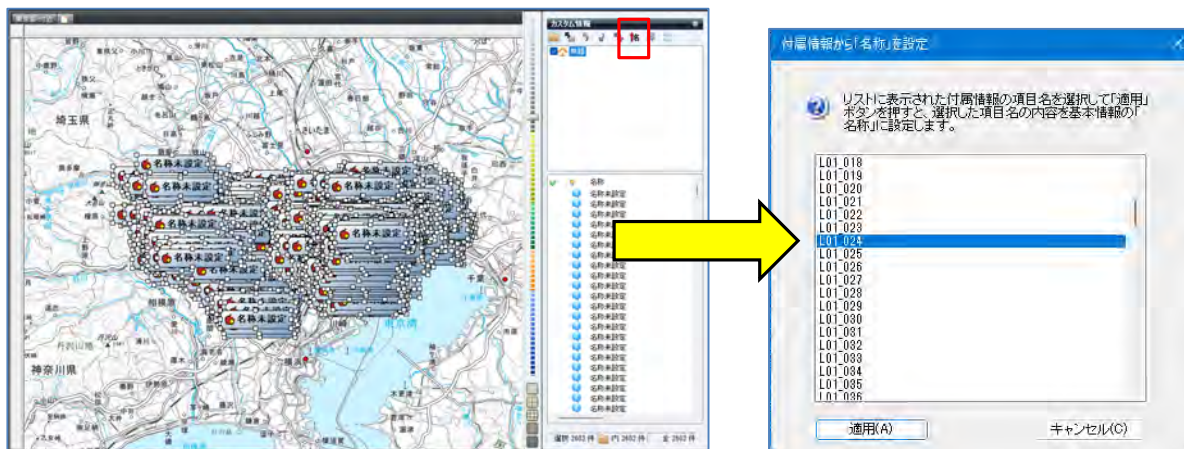


GIS用のデータには「一般の地図」で名称ル項目の設定が未定になっていることが多くあります。

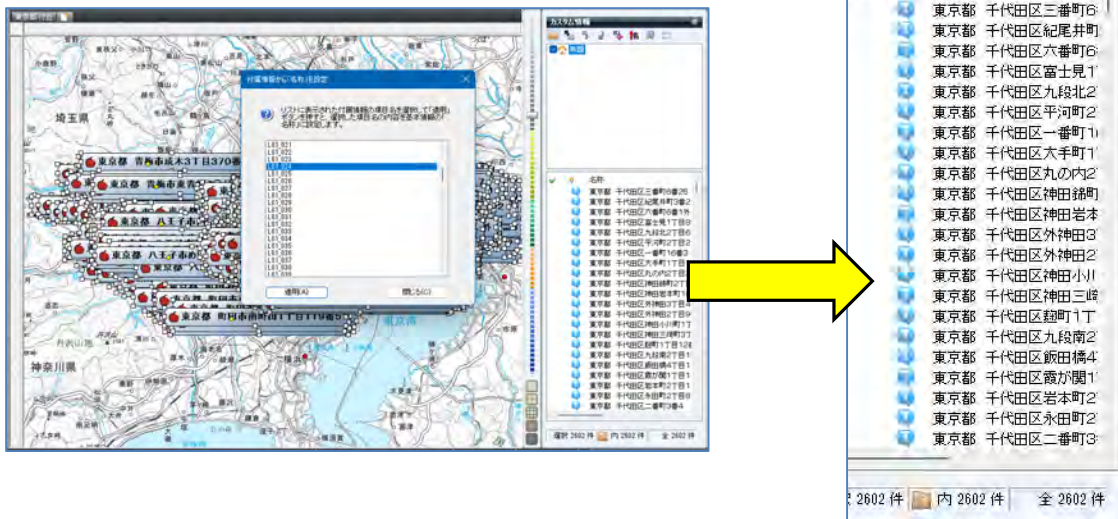
- ② で任意のデータをクリックすると、カスタム情報プレビューが開き「内容」が表示されます。「名称」にする「項目」を確認し、閉じます。
例：L01_024項目に記載されている「住所」を「名称」に設定します。



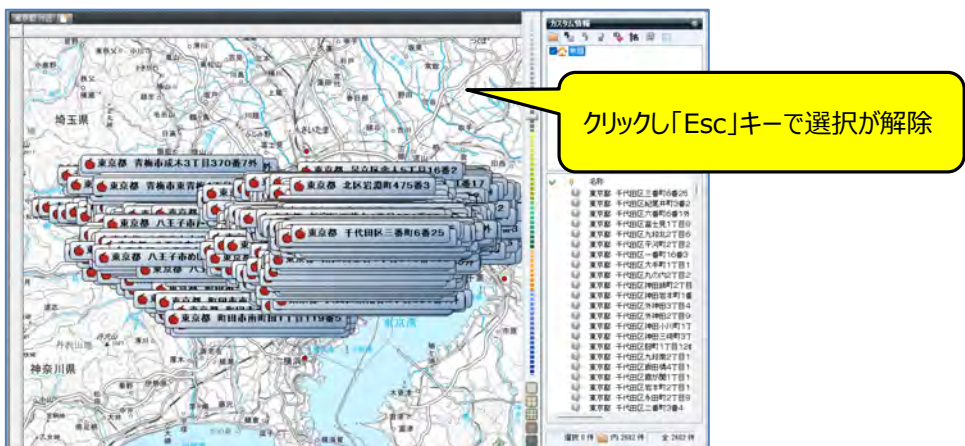
- ③ 「Ctrl+A」で全選択をし、[カスタム情報] 欄にある **名** をクリックします。
 [付属情報から「名称」を設定] 画面が表示されますので、②で確認した住所「L01_24」を選択し [適用] をクリックします。



- ④ [名称] 欄及び地図上の名称に「住所」表示設定されます。
 [閉じる] をクリックすると設定が完了いたします。

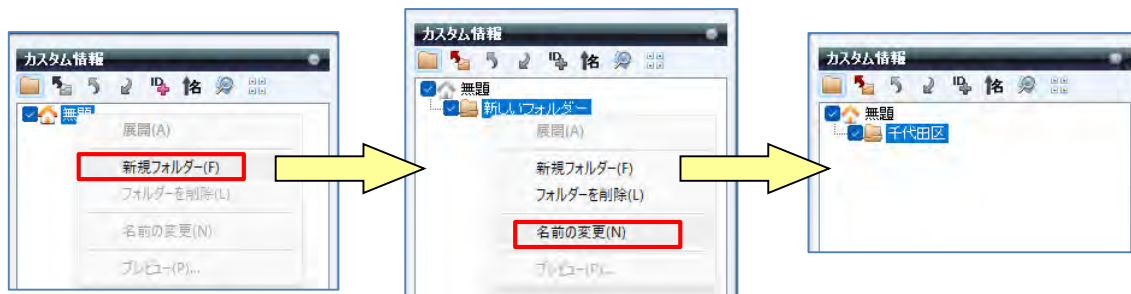


※選択を解除するには、[地図上] の空間をクリックし「Esc」キーで解除します。

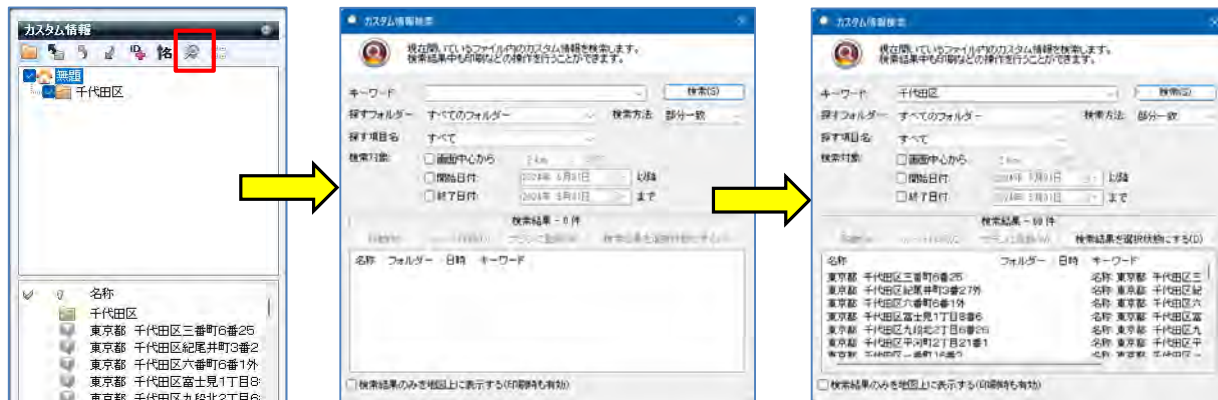


【取込んだデータを目的に合わせて「フォルダー」分け】

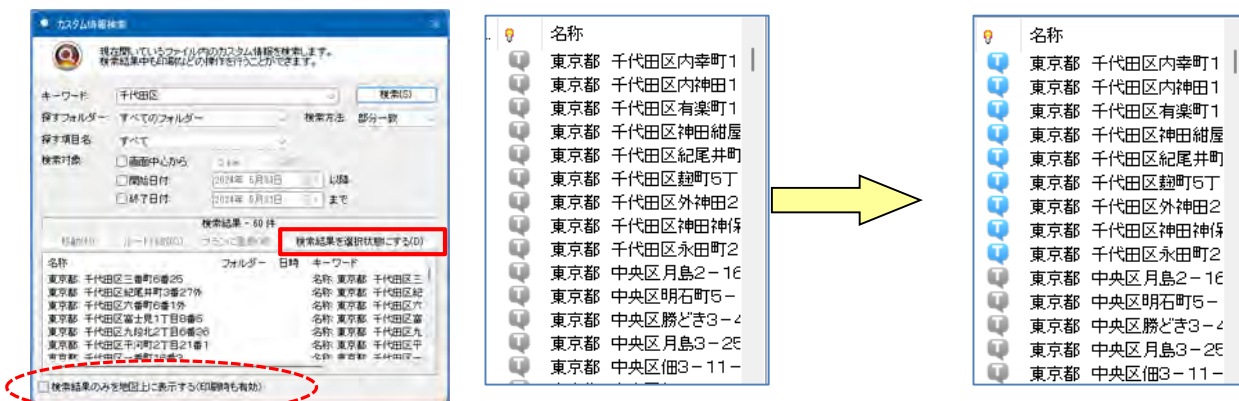
- ① 「地価公示」データを市区町村別に「フォルダー分け」をします。
 カスタム情報欄で右クリックし、新規フォルダーをクリック。
 [新規フォルダー] を右クリックして、フォルダー名（例：千代田区）を入力します。



- ② にし をクリックで [カスタム情報検索] を開き、[キーワード] に「千代田区」を入力 [検索] をクリック。
 ※例：設定は「すべてのフォルダー、部分一致、すべて」で行います。

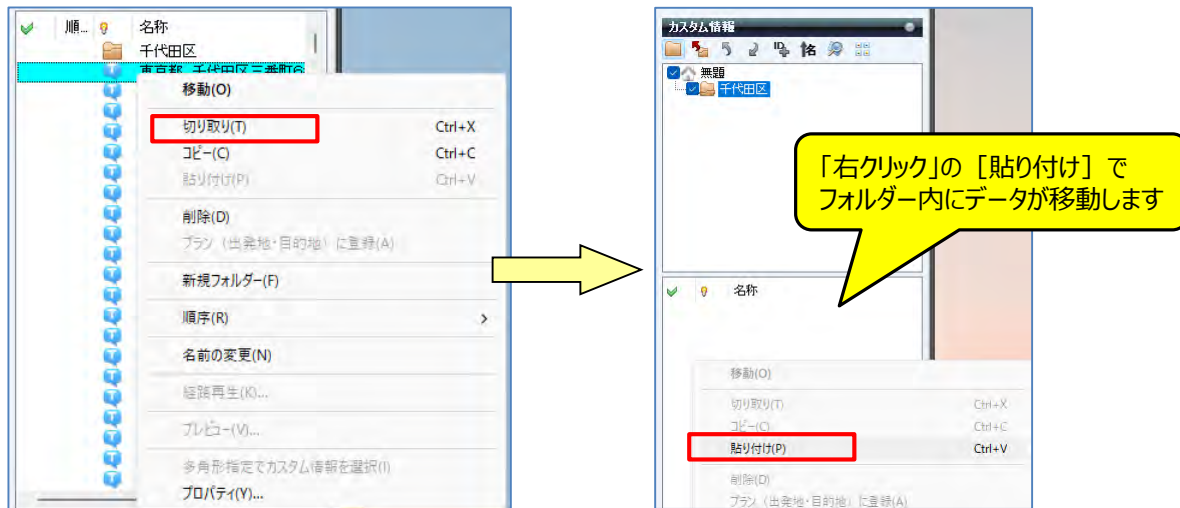


- ③ 入力された「千代田区」で検索されます。
 [検索結果を選択状態にする] をクリックすると、該当データが選択されます。

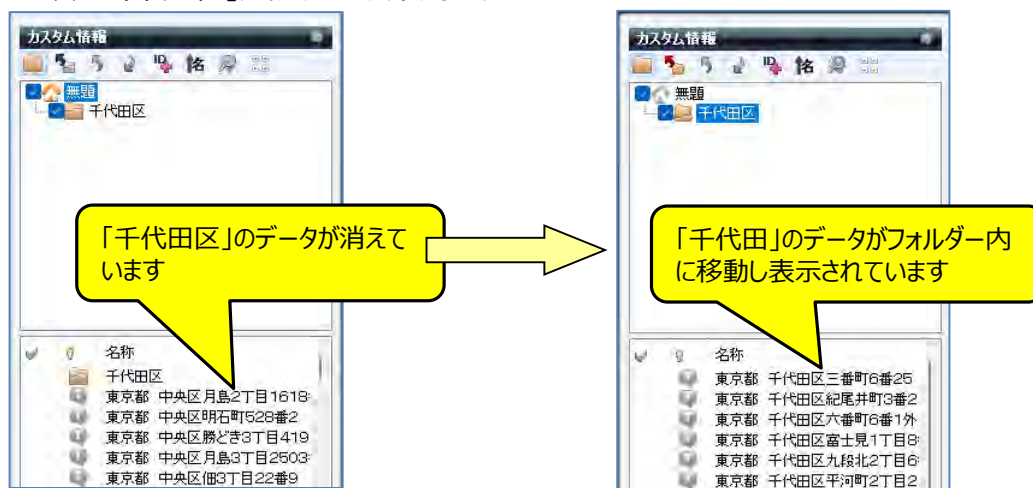


※ [カスタム情報検索] 画面下の [検索結果のみを地図上に表示する] に を入れると、該当データのみを地図表示します。

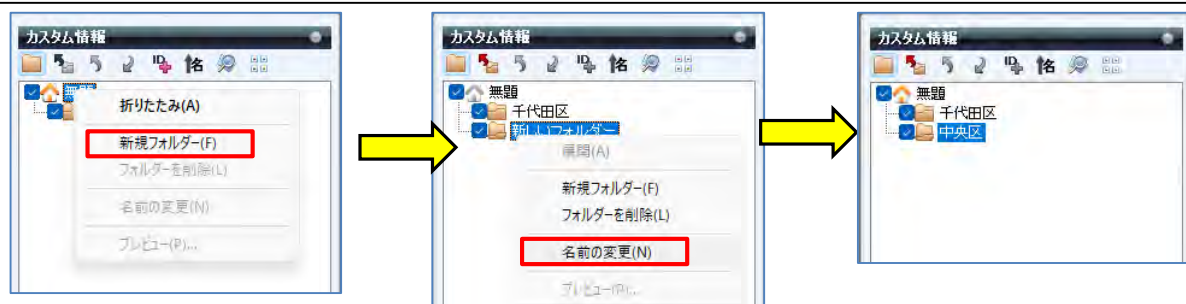
- ④ 検索された該当データ上で右クリックして、[切り取り] を選択します。
 「千代田区」フォルダーをクリックし、[名称]欄の空白部分を右クリックして[貼り付け] ます。



- ⑤ 貼り付け後、確認するため 無題 ホームをクリックし情報を表示します。
 次に「千代田区」フォルダーをクリックします。

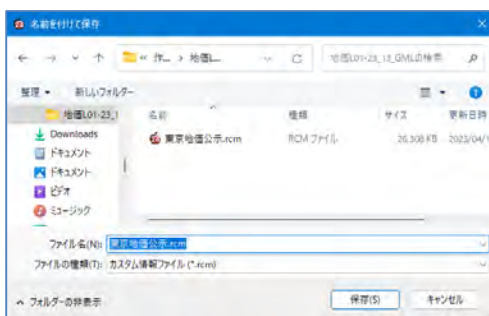
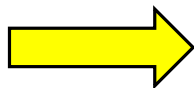


【🍏ポイント】続けてフォルダーを作成する場合は、その上位のフォルダーをクリックして作成します。
 千代田区に続けて中央区以降を作成の場合
 ※手順：「無題」の「新規フォルダー」⇒「名前の変更」⇒「中央区」となります。



※「フォルダー分け」することによりデータ整理ができ、後の仕事が行いやすくなります。

- ⑥ をクリックし「名前を付けて保存」を選択。スーパーマップル・デジタル用ファイル「カスタム情報」として保存してください。作業を途中で終了するときでも「保存」してください。後に保存したカスタム情報（rcmファイル）で続けることができます。

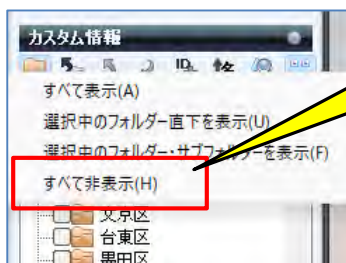


【参考】

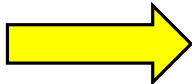
カスタム情報として保存するとき前に「情報記入」タブの「ホーム登録」をクリックすると、起動時のホームポジションとして設定され表示されます。



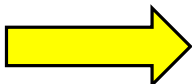
- ⑦ 「カスタム情報欄」の を活用すると、該当フォルダーを選択し地図に表示ができます。



「すべて非表示」で、地図上からデータが消えます。

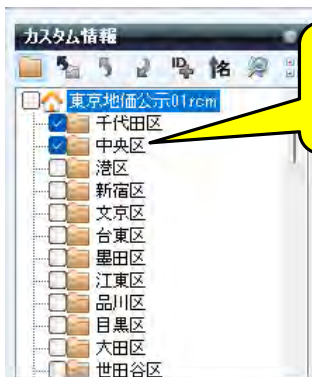


「千代田区」に図すると千代田区のみが表示されます。

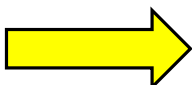


「千代田区」を表示しています。

【ご注意】
スーパーマップル・デジタル25以前のバージョンは、複数選択に対応していません。



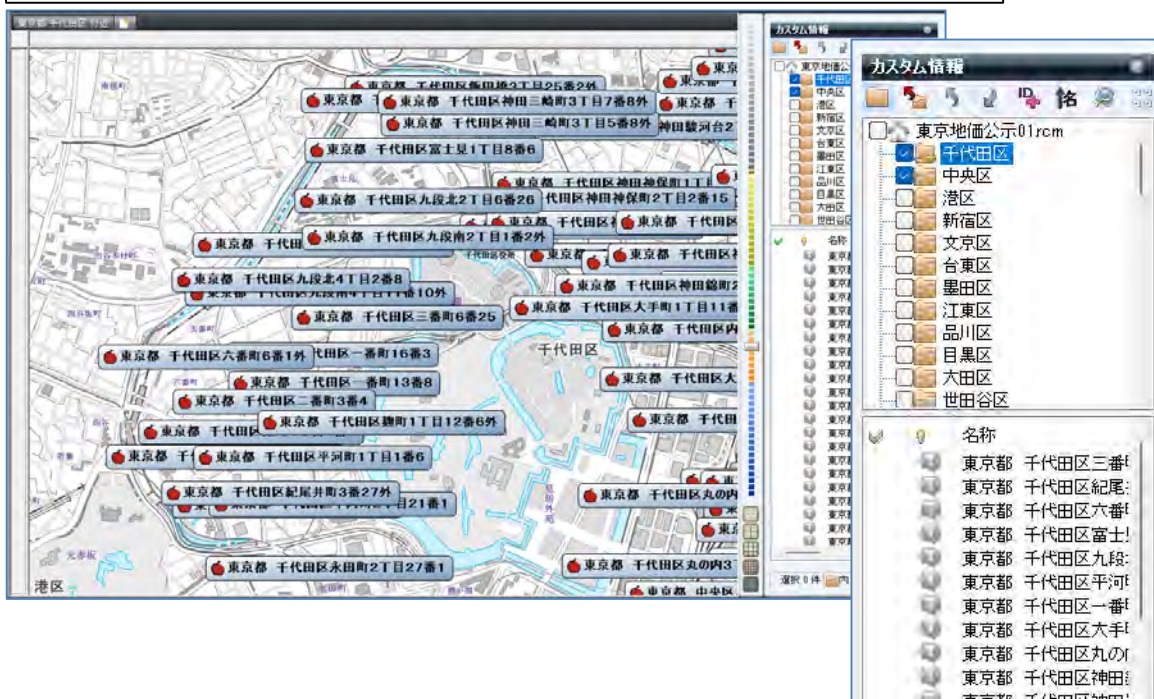
「千代田区」に「中央区」をプラス図すると中央区も千代田区と共に表示されます。



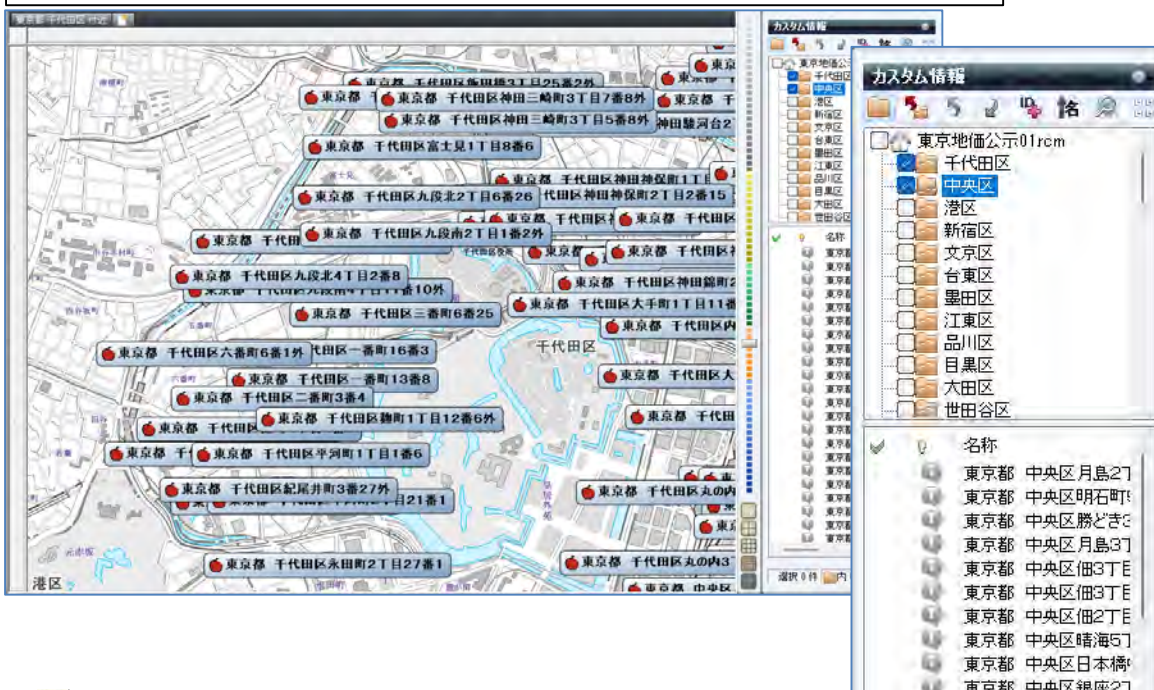
「中央区」も表示しています。

⑧ 「フォルダー名」をクリックすると、[名称] 欄に該当フォルダーに収録されているデータ名称が表示されます。

千代田区のフォルダーがクリックされていると名称欄に「千代田区」のデータ名称表示



中央区のフォルダーがクリックされていると名称欄に「中央区」のデータ名称表示

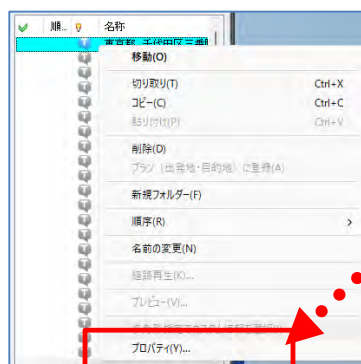


【参考】

[カスタム情報] 欄のフォルダー名の前の は地図表示のON,OFFになります。
 フォルダー名称が で囲まれている状態は [名称] 欄にデータ名称が表示されます。

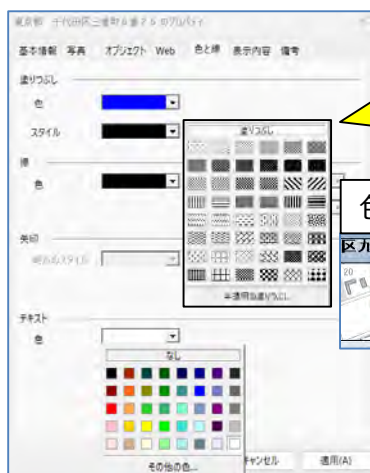
【カスタム情報の地図表示編集】

- ① で「カスタム情報」欄の「該当名称」を右クリックし、[プロパティ]を選択してください。

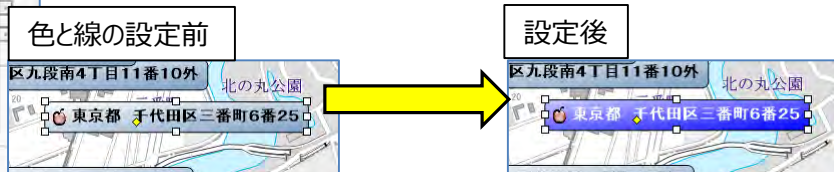


メニューから[プロパティ]を選択

- ② [色と線] タブを選択します



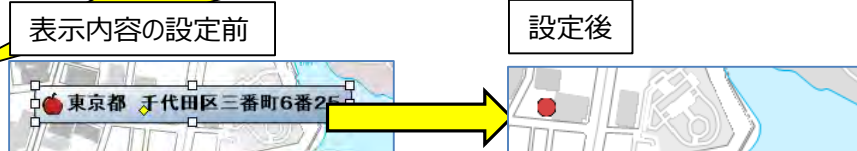
【色と線】タブの場合
 例：[塗りつぶし] の [色] を「青」
 [スタイル] を [塗りつぶし]
 [線] を「黒」
 [テキスト] を「白」



- ③ [内容表示] タブを選択します



【表示内容】タブの場合
 例：[位置表示の設定] の [アイコン] の [既定] で「赤丸」を選択
 [ラベルの設定] は「アイコンのみ」を選択
 ※ [サイズ] はスライドさせて設定します。

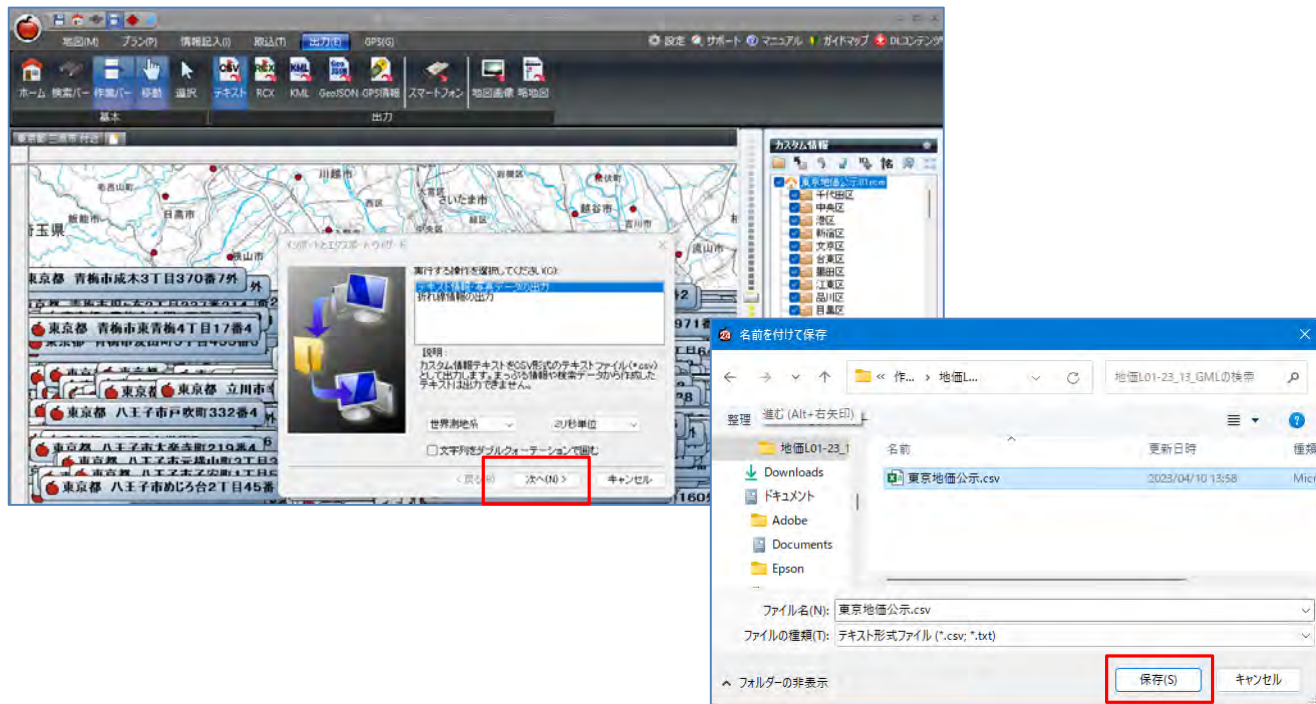


※ [色と線] [表示内容] で、表示方法を試してください。
 イメージがつかめるので、実際に表示方法を変更されることをおススメします。

【テキストの応用編 : 「テキスト」データで出力しグラフ化】

※カスタム情報で保存された東京地価公示.rcmファイルを使用します。

- ① 保存したカスタム情報を開き、[出力] の [テキスト] を選択し、「テキスト情報・写真データの出力」、「世界測地系」を選択、「次へ」をクリックし、[名前を付けて保存] で「ファイル名」を記載し、「保存」します。



- ② 保存した「東京地価公示.CSV」を [MS Excel] で開き確認してください。
スーパーマップル・デジタルでの項目が追加されています。
(注 : マニュアルはグラフに必要な項目だけを選択し記載)

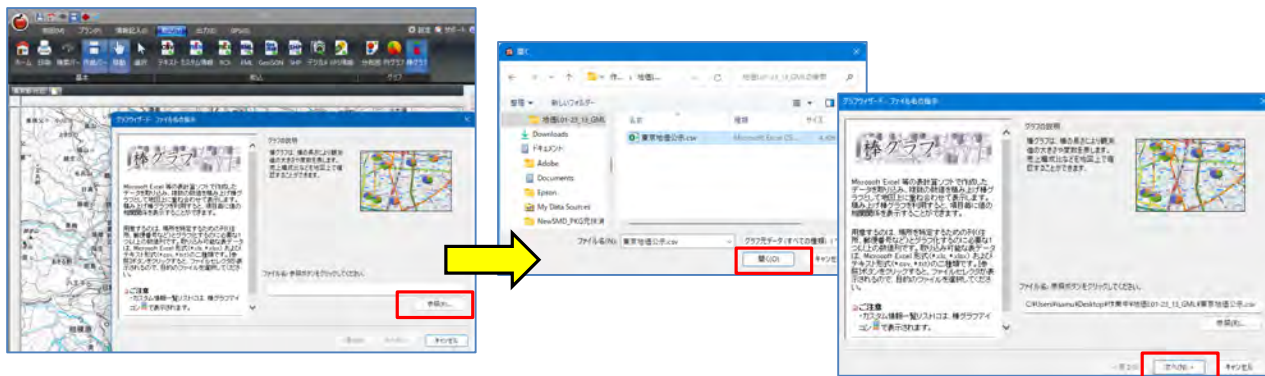
The screenshot shows an Excel spreadsheet with the following data:

名称	フリガナ	経度[世界測地系]	緯度[世界測地系]	世界測地系アイコンID	フォルダ	引出線	L01_001	L01_002	L01_003	L01_004	L01_005	L01_006	L01_007	L01_008	L01_009	
1	東京都 千代田区三番町	139.750000	35.680000	0	0	0	0	0	1	0	1	2023	3340000	3.1	1	FALSE
2	東京都 千代田区紀尾井	139.750000	35.680000	0	0	0	0	0	2	0	2	2023	2110000	3.4	1	FALSE
3	東京都 千代田区六番町	139.750000	35.680000	0	0	0	0	0	3	0	3	2023	4280000	3.1	1	FALSE
4	東京都 千代田区富士	139.750000	35.680000	0	0	0	0	0	4	0	4	2023	1620000	3.2	1	FALSE
5	東京都 千代田区九段	139.750000	35.680000	0	0	0	0	0	5	0	5	2023	3110000	3.3	1	FALSE
6	東京都 千代田区平野	139.750000	35.680000	0	0	0	0	0	6	0	6	2023	1900000	3.3	1	FALSE
7	東京都 千代田区一ツ橋	139.750000	35.680000	0	0	0	0	0	7	0	7	2023	3180000	3.2	1	FALSE
8	東京都 千代田区大塚	139.750000	35.680000	0	0	0	5	1	5	1	5	2023	14100000	0.7	1	FALSE

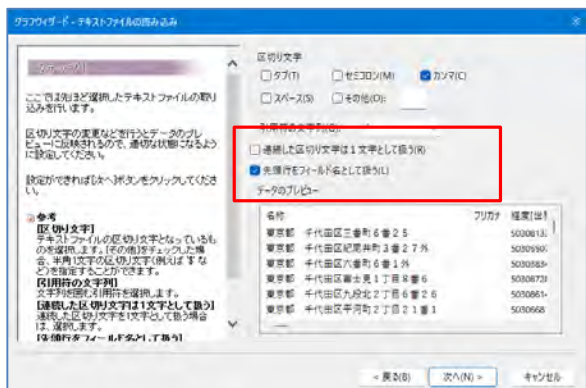
スーパーマップル・デジタルで追加された項目

L01_06を最新地価とする


- ③ スーパーマップル・デジタルの [取込] の [棒グラフ] をクリックし、[グラフウィザード] の [参照] で、「東京地価公示.csv」を選択し、[開く] の [次へ] で取込みます。

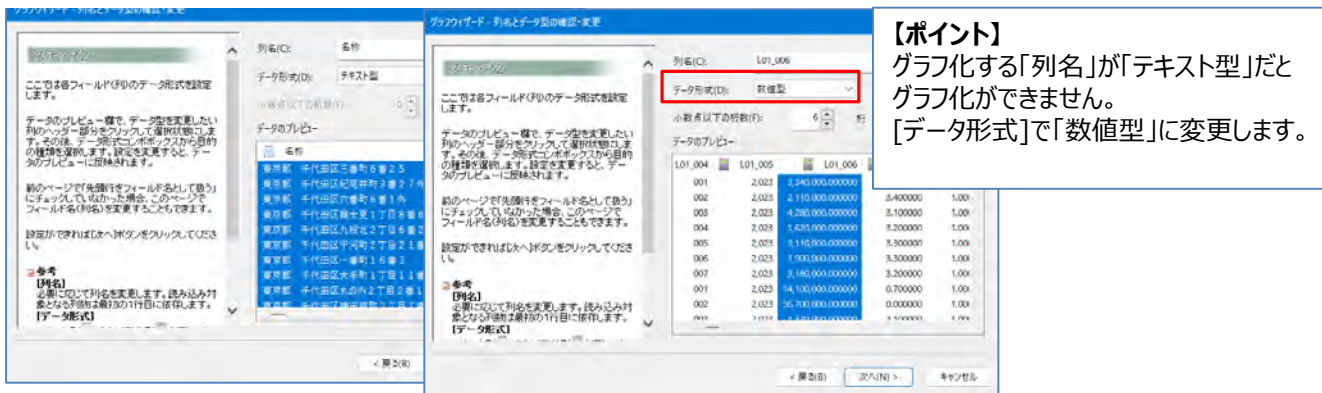


- ④ 「データのプレビュー」で表示されているデータを確認し、[次へ]。

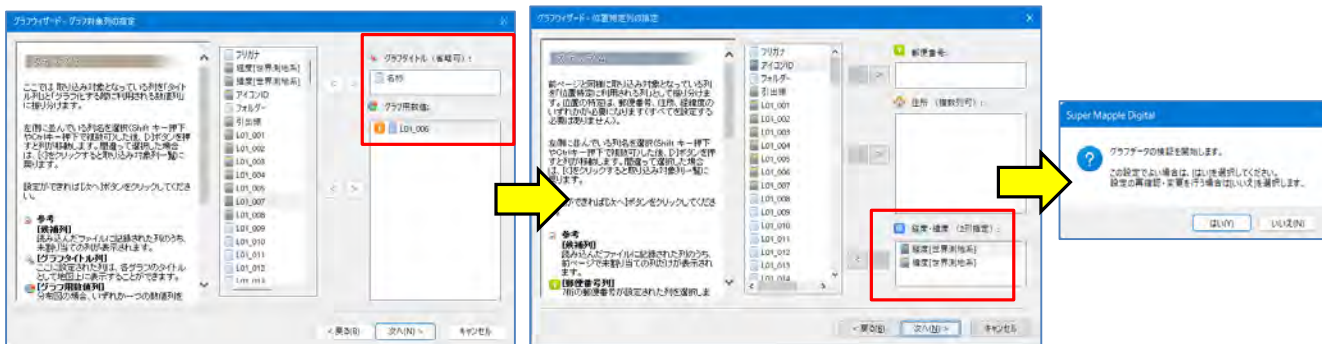


【ポイント】
「先頭行をフィールド名として使う」に☑が入っていること。
*フィールド名はどの列をグラフに割り当てるか、設定するときの名称 (項目名) です。

- ⑤ 列名とデータ形式を横のスライダーで確認し、[次へ] をクリックします。
・項目の名称をクリックするとデータ形式がわかります。また項目名の前にある「数値アイコン」 で確認できます。

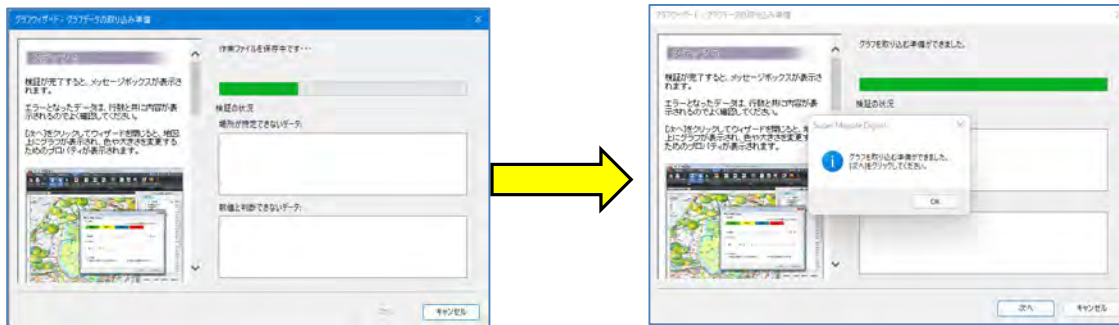


- ⑥ グラフタイトルには通常「名称」を選択し、「グラフ用数値」に任意の項目を選択し [次へ]。(例：L01_006)
「経度・緯度」を選択し [次へ] の [はい] をクリックすると「データ」を読み「グラフ」化を行います
*「グラフタイトル」は省略しても構いません。



⑦ グラフ化の準備が始まります。(注：データ量により時間を要する場合があります)

完了しましたら、[OK] の [次へ] をクリックしてください。



⑧ グラフが表示されますので任意に設定してください。

(例：最大値の設定で100mm、最小値は1mm、幅の設定は5mm)

【ポイント】

- ・ 枠内の「グラフの色」「グラフのサイズ」を設定することにより、表示バランスを変更することができます。
- ・ また、表示後も「プロパティ」で調整ができます。

Red arrows from the text box point to these settings in the screenshot above.

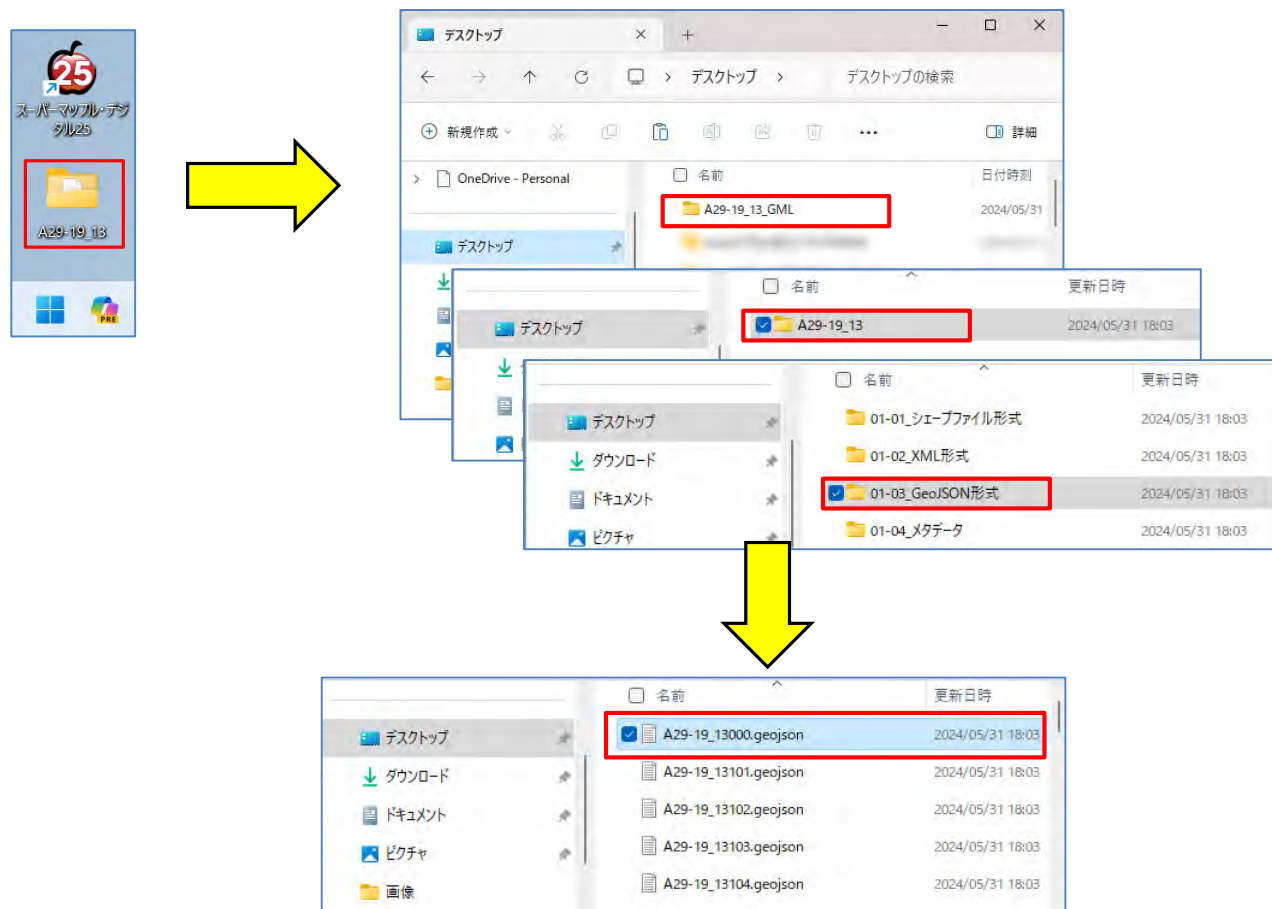
Red arrows from the text box point to the map area.

⑨ 完了しましたら、「保存」します。

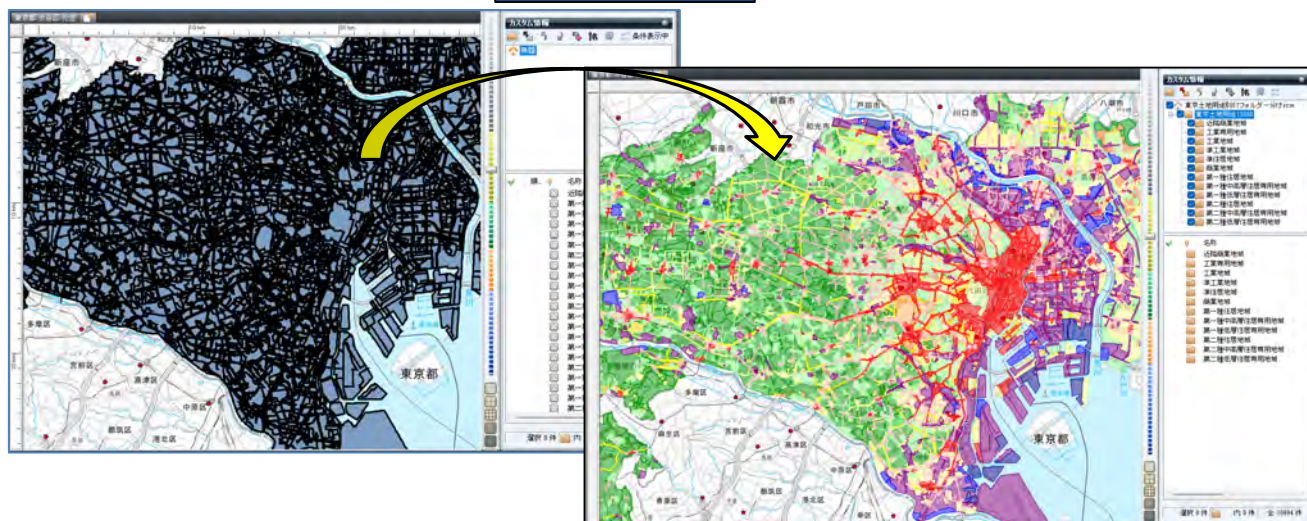
■ 事前の準備② 土地用途地域データのダウンロード

- ① 「国土交通省」の「国土数値情報」の「用地地域（ポリゴン）」サイトから、任意のエリアをダウンロードし、ファイルをダブルクリックし、デスクトップに解凍すると、作業が行いやすくなります。

※GMLフォルダー内にある「geojson」ファイルを使用します。（例：A29-19_13を使用）

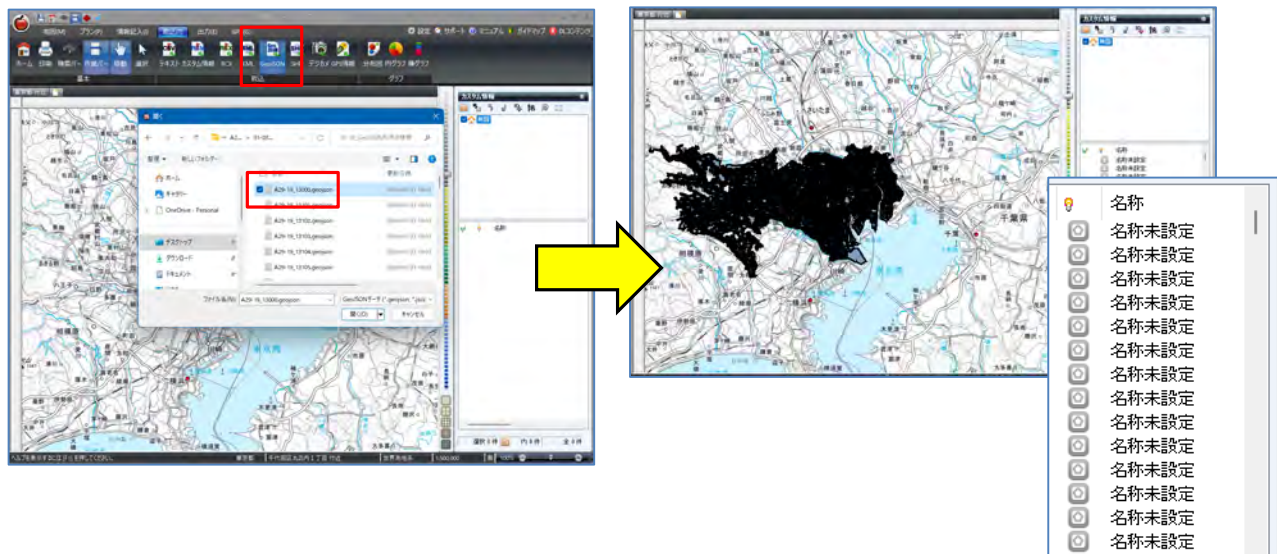


仕上がりイメージ



【GMLフォルダの『GeoJSON』を取込み編集「ポリゴン編」】

- ① スーパーマップル・デジタルを起動し [取込] の [GeoJSON] をクリックし、「L01-23_13.geojson」の「開く」で取込んでください。

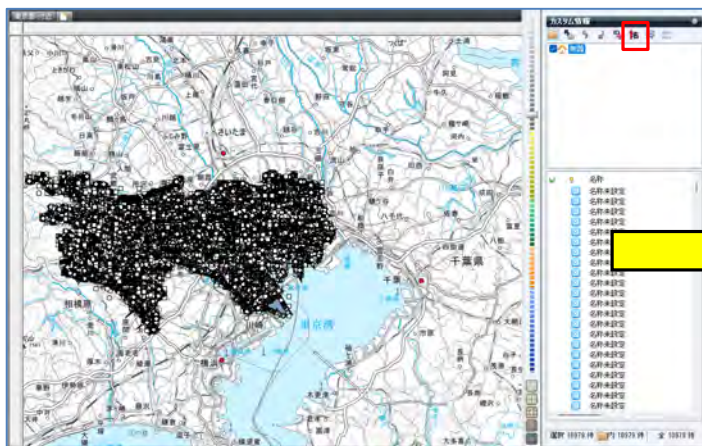


GIS用のデータには「一般の地図」で表示ラベル項目の設定が未定になっていることが多くあります。

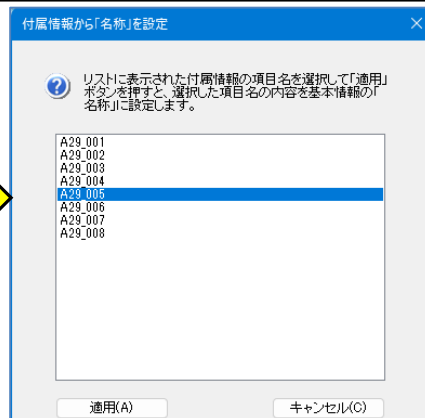
- ② で任意のデータを右クリックし、[プロパティ] を選択すると、カスタム情報の [プロパティ] 開き「内容」が表示されます。「名称」にする「項目」を確認し、[OK] で閉じます。
例：A29_005項目に記載されている土地用途の「内容」を「名称」に設定します。



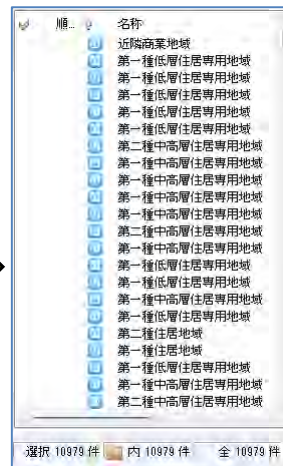
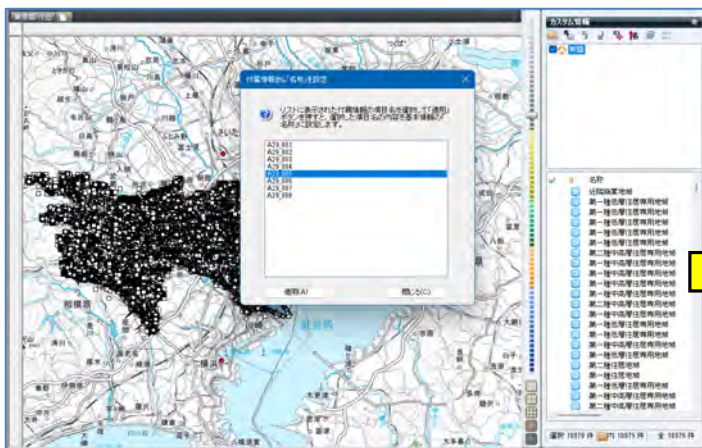
- ③ 「Ctrl+A」で全選択をし、[カスタム情報] 欄にある **名** をクリックします。
 [付属情報から「名称」を設定] 画面が表示されますので、②で確認した土地利用の「内容」の「A29_005」を選択し [適用] をクリックします。



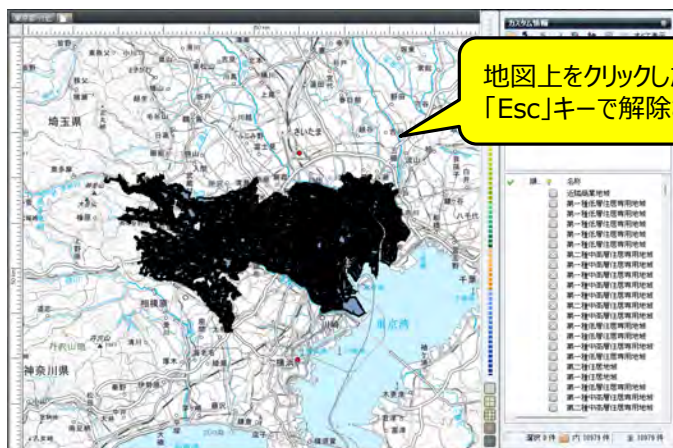
注：データ量により時間を要する場合があります。



- ④ [名称] 欄の名称に「土地利用」表示設定されます、
 [閉じる] をクリックすると設定が完了いたします。

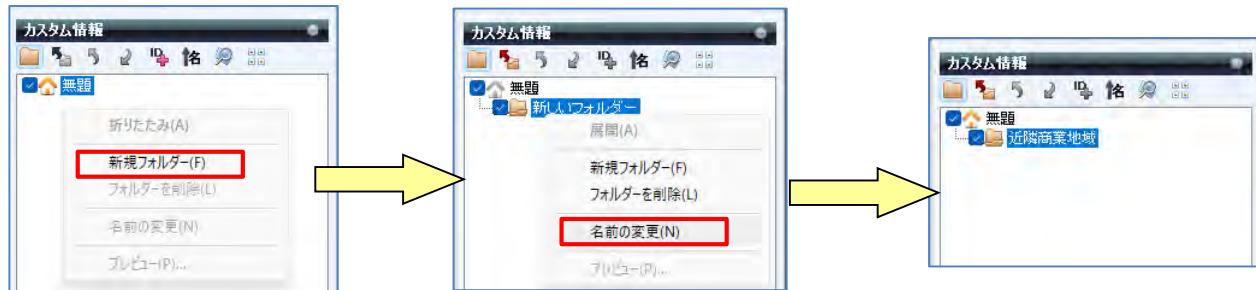


※選択を解除するには、地図上をクリックし「Esc」キーで解除

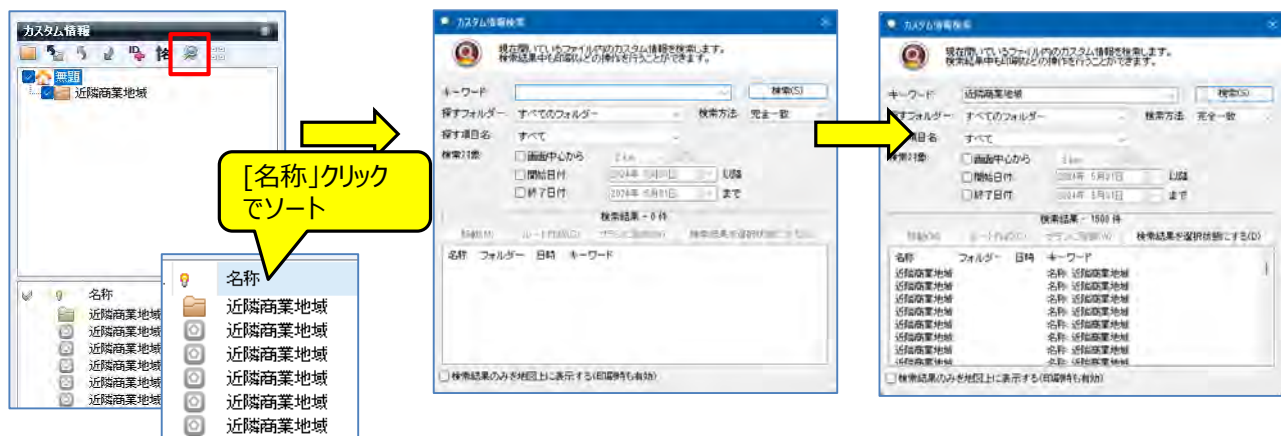


【取込んだデータを目的に合わせて「フォルダー」分け】

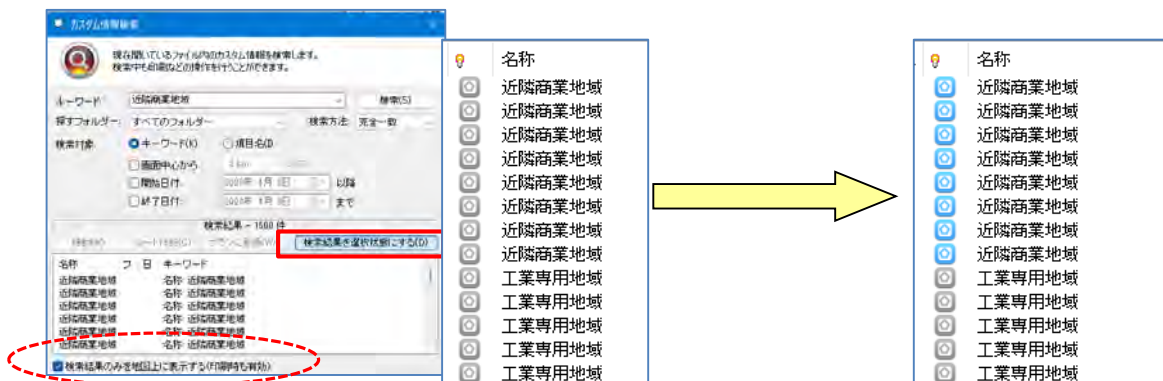
- ① 「土地用途」データを用途別にフォルダー分けにします。
 カスタム情報欄で右クリックし、新規フォルダーをクリック。
 [新規フォルダー] を右クリックして、フォルダー名（例：近隣商業地域）を入力します。



- ② [無題] で[名称] 欄をクリックすると、「名称」がソートされ作業が行いやすくなります。
 をクリックで「カスタム情報検索」を開き、[キーワード] に「近隣商業地域」を入力 [検索] をクリック。
 ※例：設定は「すべてのフォルダー、完全一致、すべて」で行います。

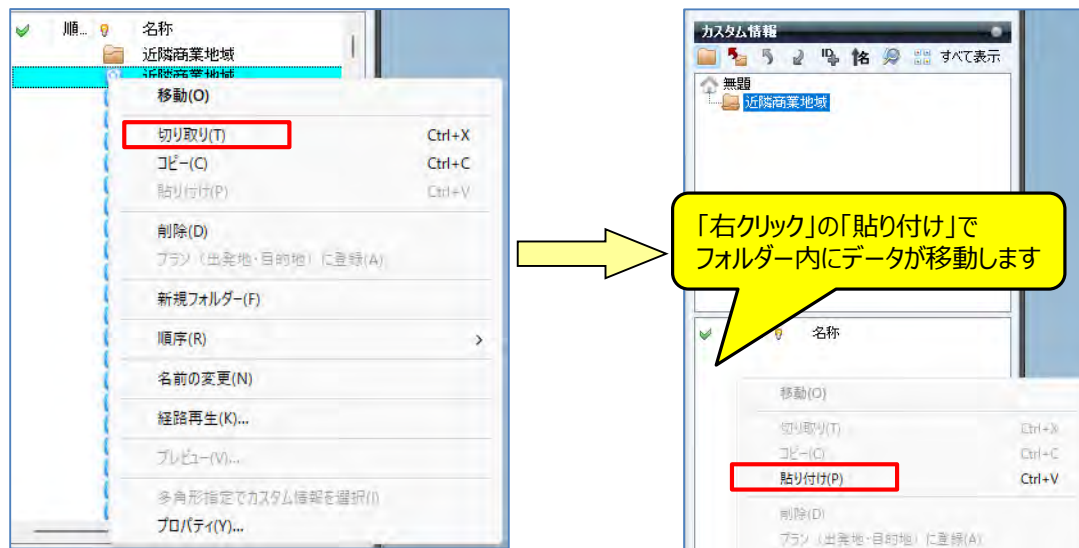


- ③ 入力された「近隣商業地域」で検索されます。
 [検索結果を選択状態にする] をクリックすると、該当データが選択されます。

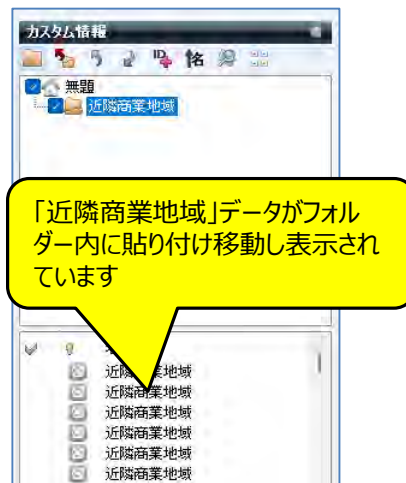
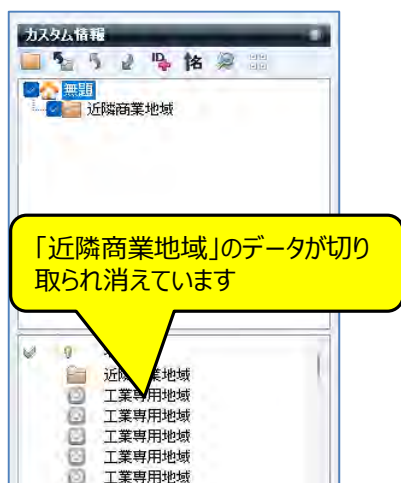


※「カスタム情報検索」画面下の [検索結果のみを地図上に表示する] に を入れると、該当データのみを地図表示します。

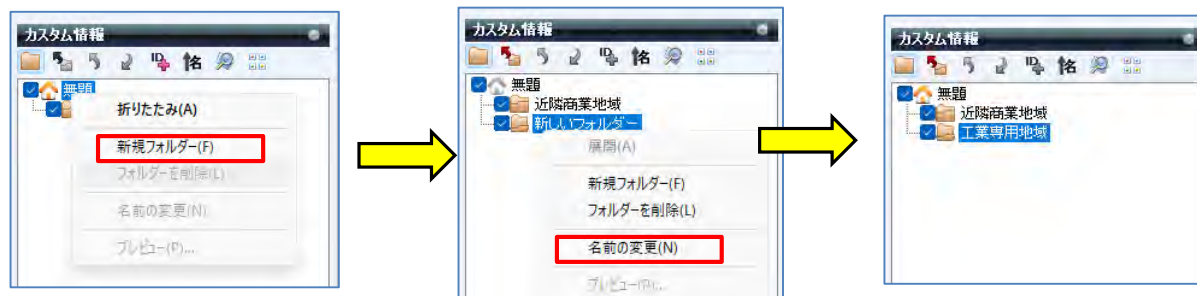
- ④ 検索された該当データ上で右クリックして、[切り取り] を選択します。
「近隣商業地域」フォルダーをクリックし、[名称] 欄上に [貼り付け] ます。



- ⑤ 貼り付け後、確認するため 無題 ホームをクリックし情報を表示します。
次に「近隣商業地域」フォルダーをします。




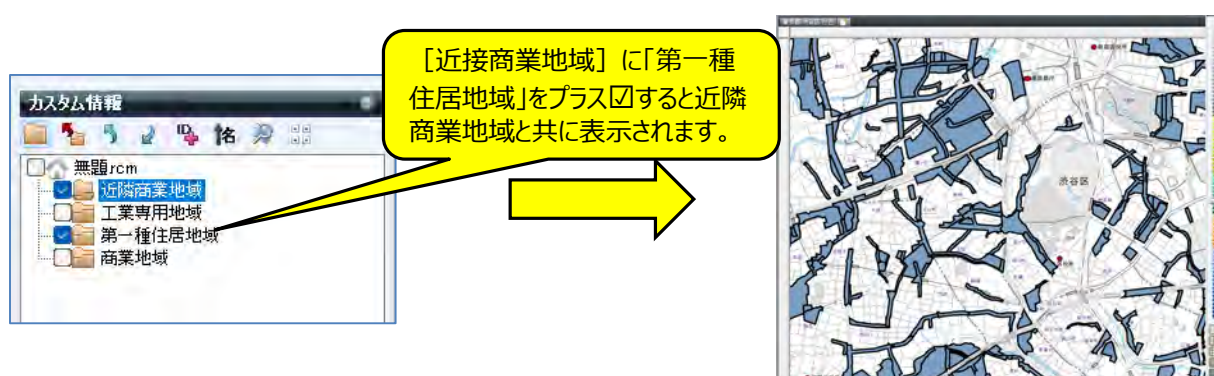
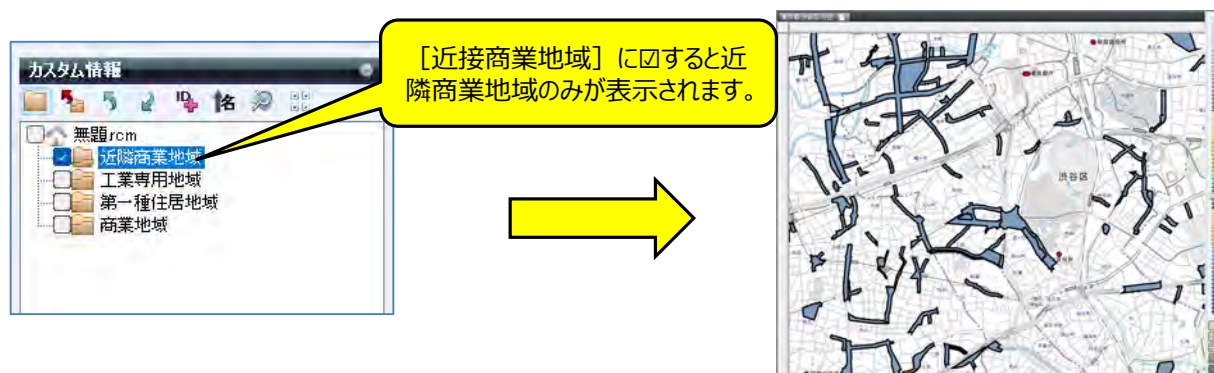
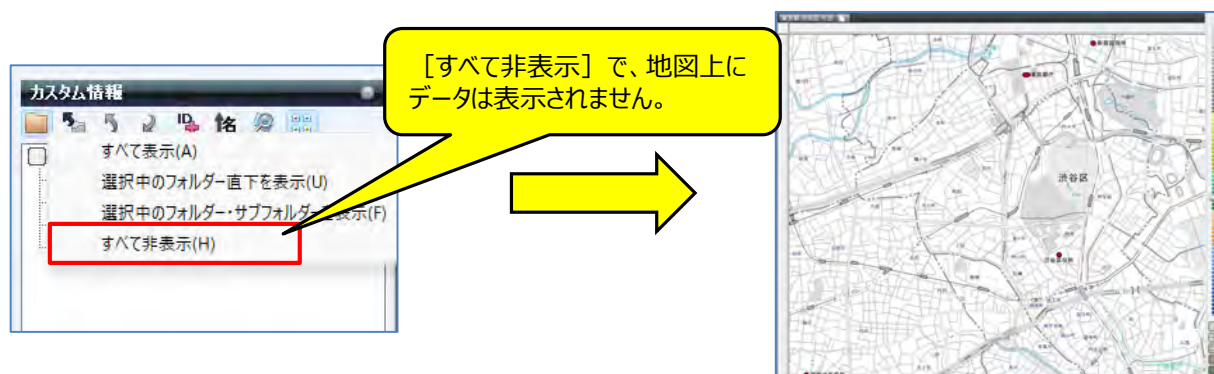
【🍏ポイント】新規フォルダーを作成する場合は、その上位のフォルダーをクリックして作成します。
「近隣商業地域」に続けて「工業専用地域」以降を作成の場合
※手順：「無題」の「新規フォルダー」⇒「名前の変更」⇒「工業専用地域」となります。



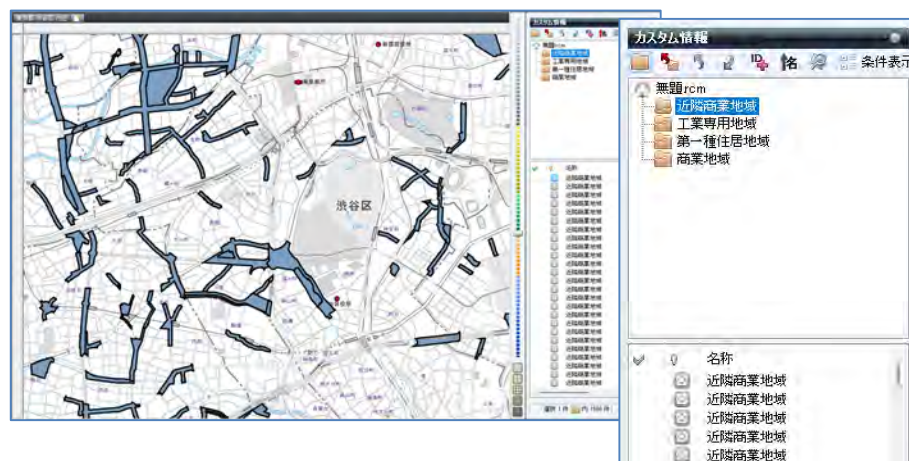
※「フォルダー分け」することによりデータ整理ができ、後の仕事が行いやすくなります。

【「フォルダー」分けしたデータ選択とを目的に合わせた「色」分け】

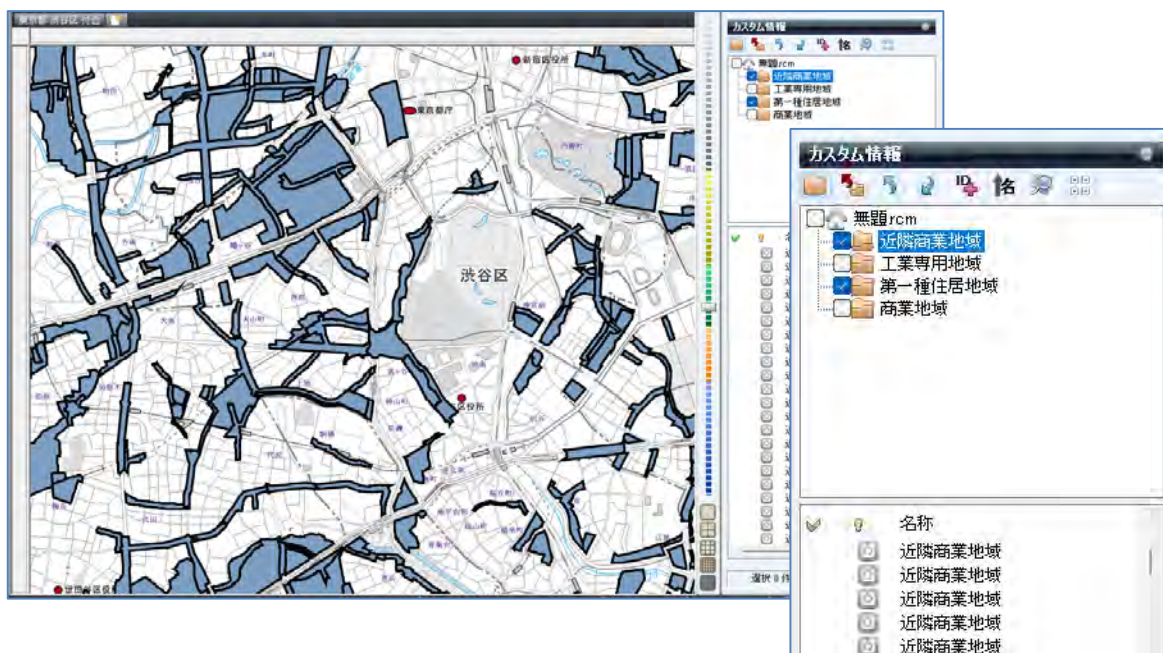
① 【カスタム情報欄】の  を活用すると、該当のフォルダーの地図表示ができます。



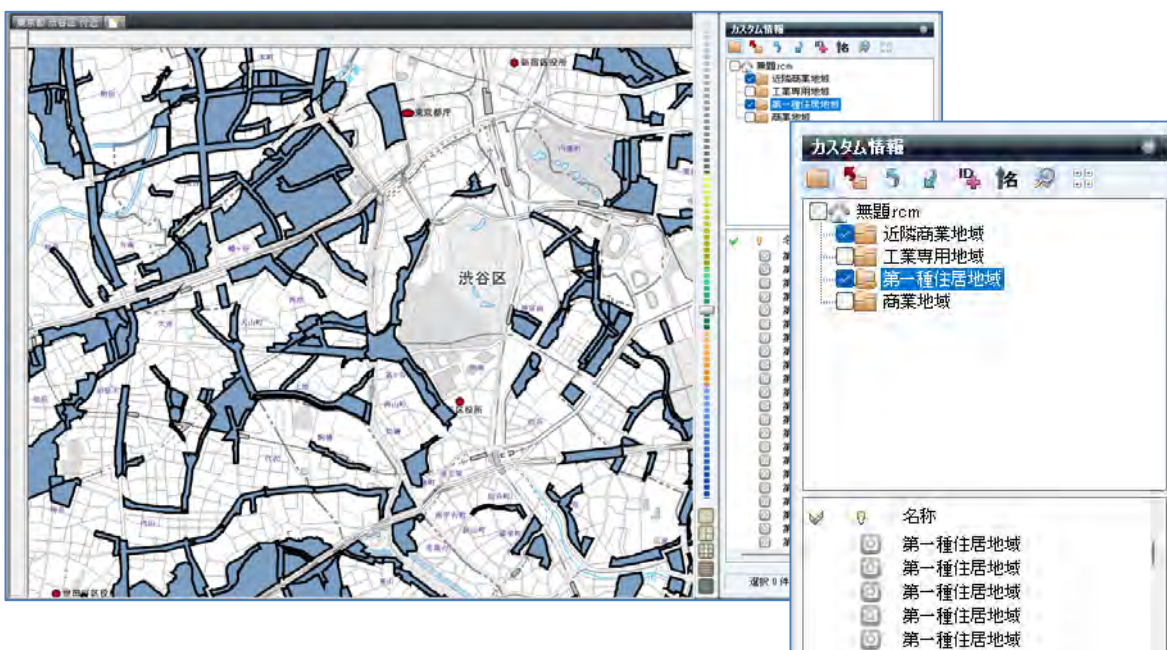
【ご注意】スーパーマップル・デジタル25以前のバージョンでは、複数選択に対応しておりません。



② 「フォルダー名」をクリックすると、[名称] 欄に該当フォルダーに収録されているデータ名称が表示されます。



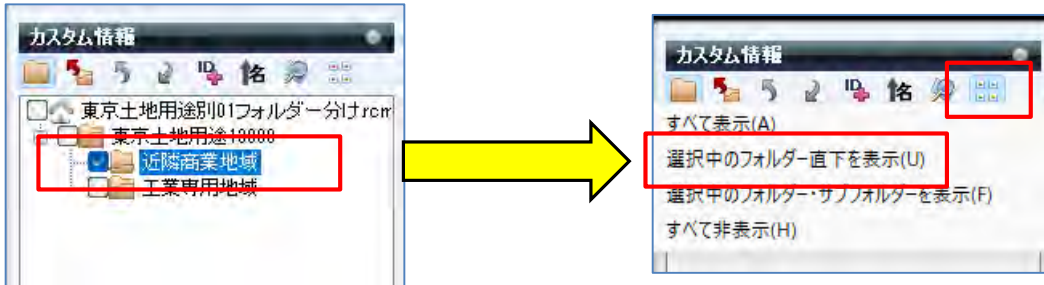
第一種住居地域のフォルダーがクリックされていると名称欄に「第一種住居地域」のデータ名称表示



【🍎 参考】

[カスタム情報] 欄のフォルダー名の前の☑は地図表示のON,OFFになります。
 フォルダー名称が で囲まれている状態は [名称] 欄にデータ名称が表示されます。

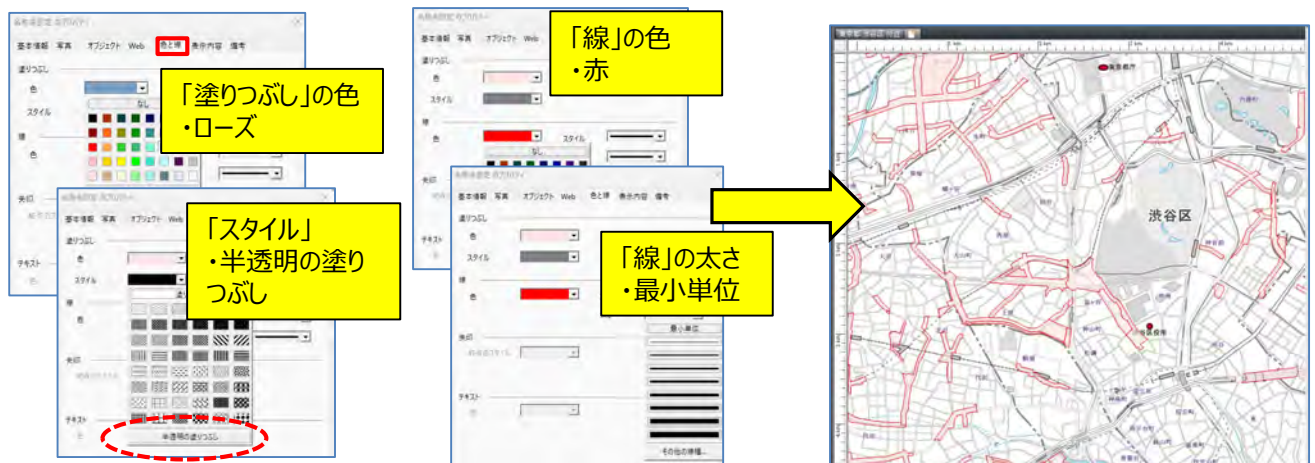
【🍎ポイント】「フォルダー」内のデータを加工編集する場合は、該当フォルダー名称をクリックし、[カスタム情報] 欄の「選択中のフォルダー直下を表示」選択します。



③ 「Ctrl+A」で全選択をし、右クリックで「プロパティ」を選択します。
[プロパティ] の[色と線]タブで、色と線の太さなどを設定します。



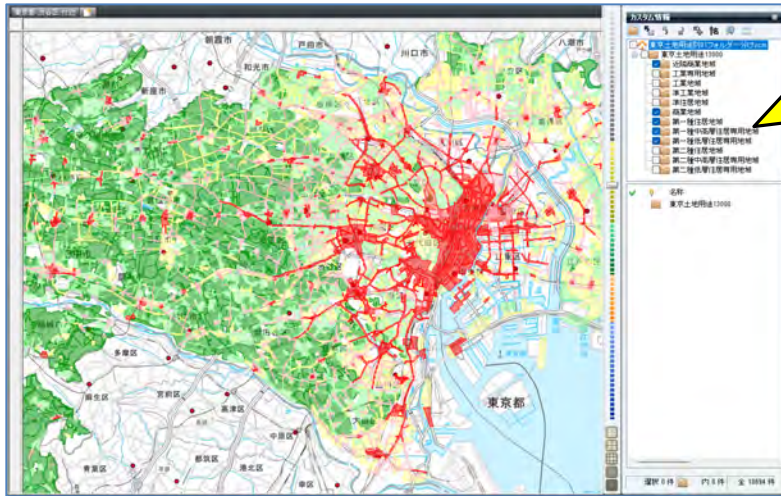
④ 各項目を設定し「OK」をクリックします。



⑤ [近隣商業地域] 以外の地域も①～③を繰り返し行うことにより、ポリゴンを任意の色にすることができます。

※表示方法を試してください。イメージがつかめるので、実際に表示方法を変更されることをおすすめします。

- ⑥ をクリックし「名前を付けて保存」を選択。スーパーマップル・デジタル用ファイル「カスタム情報」として保存してください。作業を途中で終了するときでも「保存」してください。後に保存したカスタム情報（rcmファイル）で続けることができます。



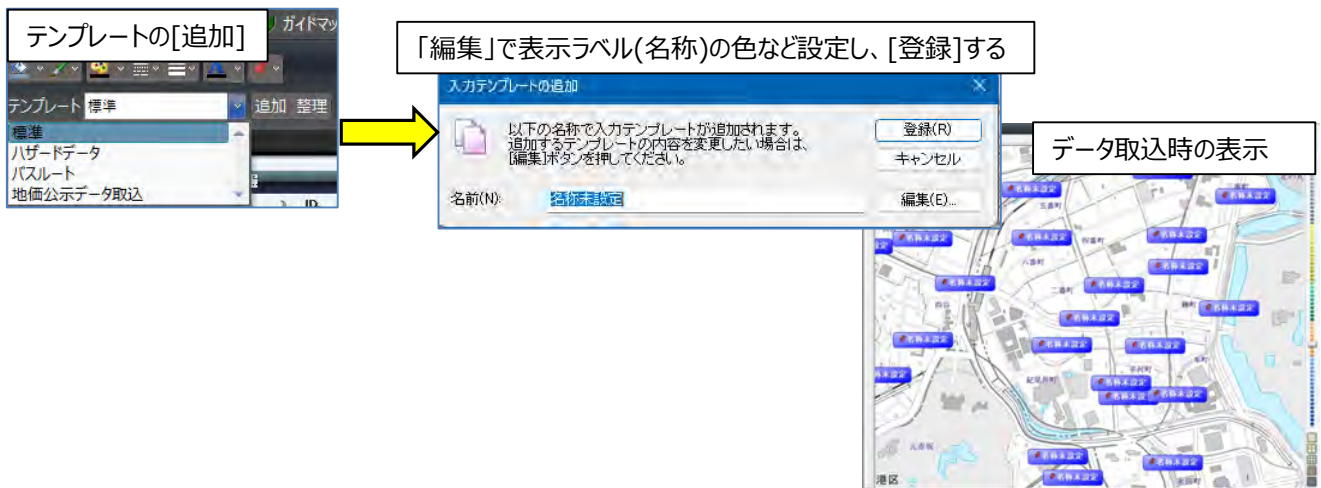
スーパーマップル・デジタル25
完了後、表示したいフォルダー（データ）を複数選択した画面

ポイント】【地図スタイル】や【情報記入】の【テンプレート】を利用し、データ表示作業を快適に効率的に

- ・【地図スタイル】で地図表示方法を選ぶ



- ・【テンプレート】で、「データ取込」や「入力作業」を速やかに

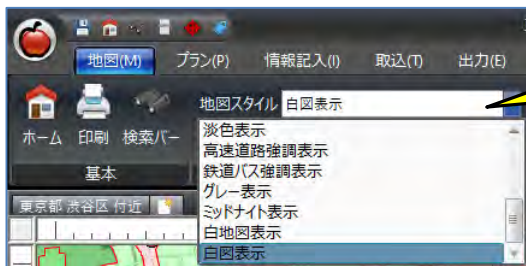


■ カスタム情報を結合する応用編

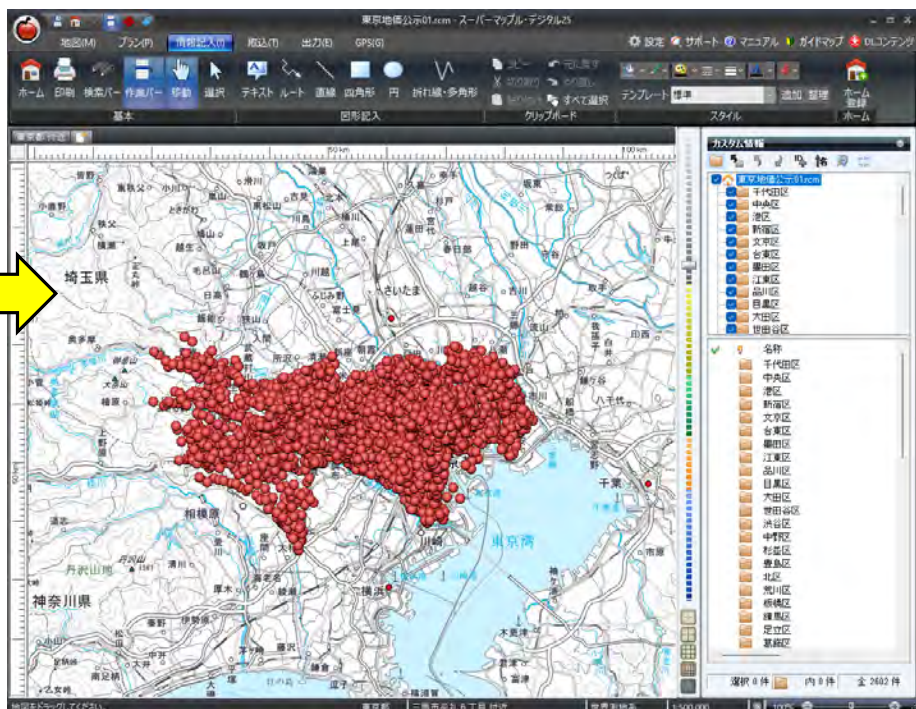
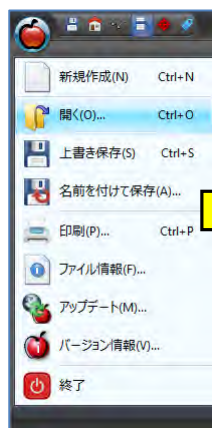
※カスタム情報で保存された「例：東京地価公示.rcmファイルとを東京土地用途別」使用します。

① [メニュー] から「開く」で、「東京地価公示.rcm」を開き、縮尺を1/25,000程度にします。

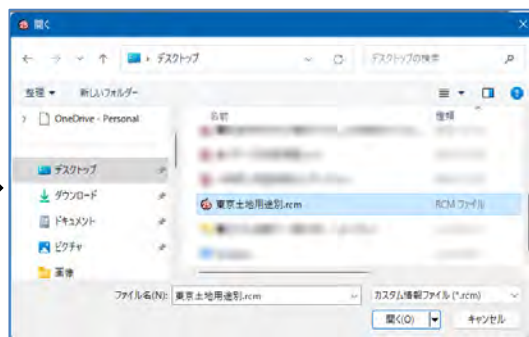
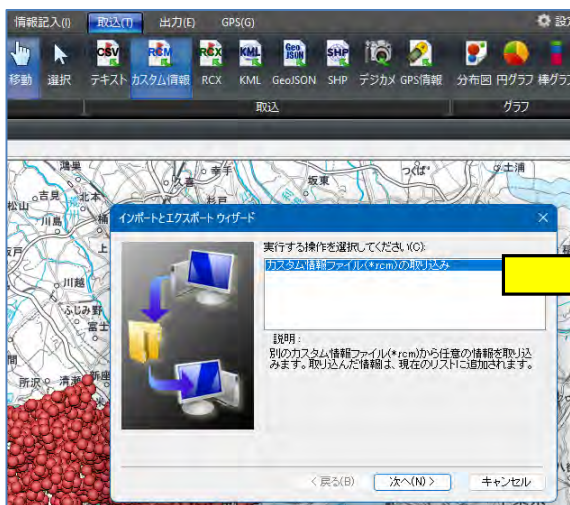
※画面内で表示するデータ数が少なくなるので、表示が早くなります。



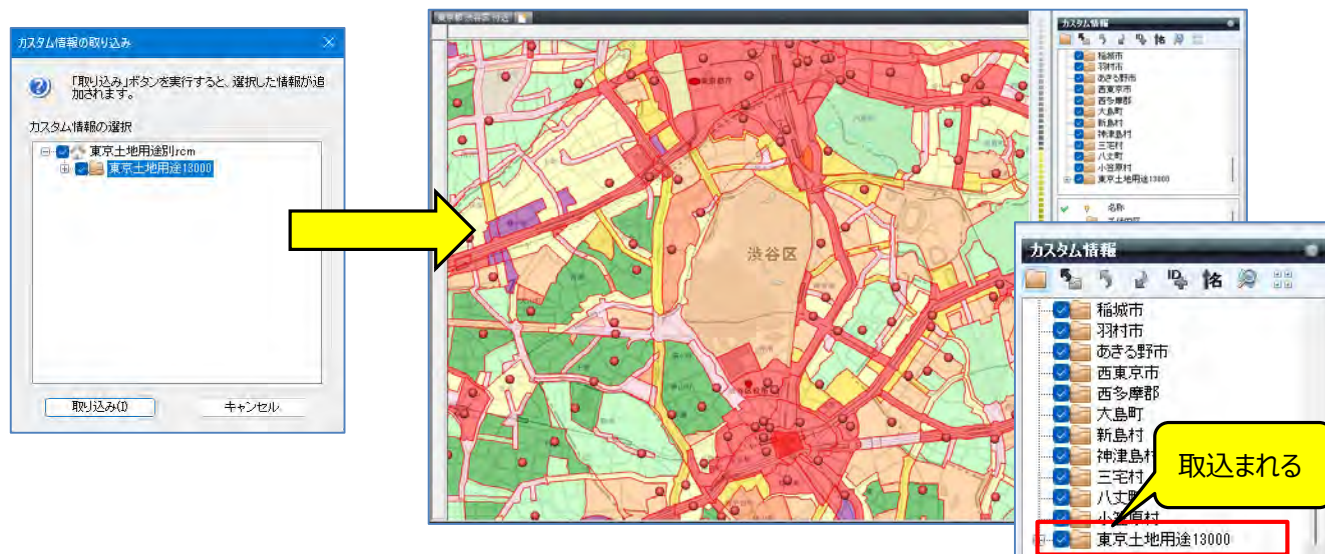
地図表示は見やすくするため、
地図スタイルで「白図」を選択



② 「取込」の「カスタム情報」を選択すると、「インポートとエクスポートウィザード」が開きますので、「次へ」をクリックし、「東京土地用途別.rcm」を選択。

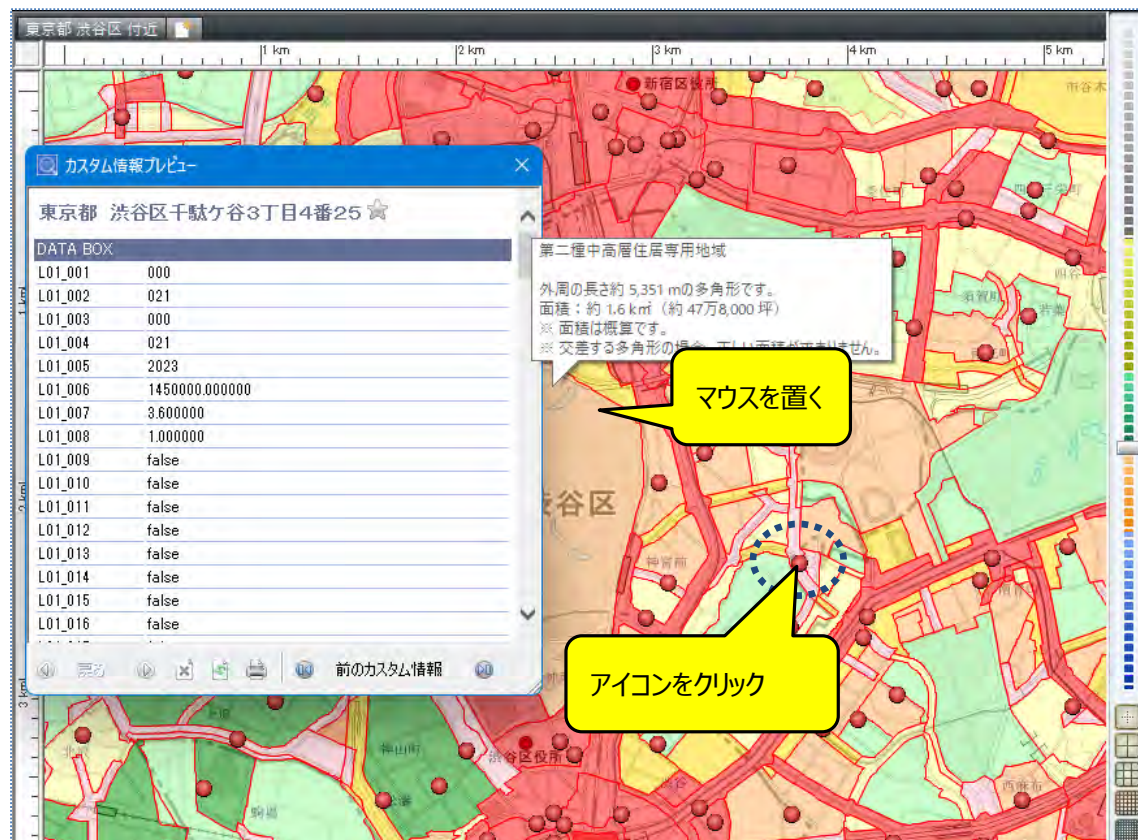


- ③ [カスタム情報の取込み]が開きますので、を確認し [取り込み] をクリックしてください。
 [テキスト情報] の「東京地価公示」に [ポリゴン情報] の「東京土地用途別」が結合され表示されます。



【ポイント】最初に開いた「カスタム情報」が上位になり、「取込」の「カスタム情報」はその下位になります。
 ※テキストのカスタム情報を先に「開き」、ポリゴンのカスタム情報を「取込」すると、テキストが上位にポリゴンが下位に表示されます。

- ④ [テキスト情報] のアイコンをクリックすると「カスタム情報プレビュー」で内容を表示。
 [ポリゴン情報] の枠内にマウスを置くと、「土地用途」を表示します。



注意事項

製品名及び社名などは、各社の商標または登録商標です。

以上